

平成28年9月23日
釧路信用組合

第3回経営審査会議の結果概要について

当信用組合は、経営の客観性・透明性を確保し、コーポレート・ガバナンスを強化することを目的として設けた、外部有識者3名により構成する「経営審査会議」の第3回目会議を開催しました。その概要につきまして、下記のとおり取り纏め致しました。

記

1、開催日時

平成28年7月28日（木） 16:00 ～ 17:15

2、開催場所

釧路信用組合 本店

3、出席者

(経営審査委員)

尾崎 泰文	(座長 釧路公立大学経済学部 教授)
簗島 弘幸	(弁護士)
鈴木 直哉	(釧路商工会議所 理事事務局長)

(釧路信用組合)

坂井 俊次	(理事長)
涌井 清一	(常務理事)
小西 卓哉	(常勤理事)
小倉 正	(常勤監事)
藤原 和巳	(総務副部長)

4、事務局からの資料説明要旨

坂井理事長より平成27年度における決算の概況及び経営強化計画の履行状況について説明致しました。

また、前回第2回経営審査会において、委員から提言を受けた点についての取組状況を次のとおり説明致しました。

・地域貢献活動の一環として若手起業家によるクラウド交流会の開催に協賛した

ほか、旧日銀をライトアップする計画の実現に向けて北大通元気プロジェクトを当組合職員有志が立ち上げております。

- ・従来、閲覧しにくいと不評であったホームページは、若手職員の努力もあり、閲覧性の高い仕様に全面改正されました。採用情報が充実し人材確保に効果があると考えます。また、網走支店のコミュニティ広場を網走市のマスコットキャラクターの名称でもある「ニポネ」と命名し、東京農大のサテライトとして活用されるなど地域への浸透を図っていきます。
- ・人材育成の進捗につきましては、職員を外部研修に派遣する他、内部研修に於いても外部講師を招き随時講座を開催しております。また、8月より私自身が講師となり、融資業務に係る勉強会を行いたいと考えております。
今後の経営強化計画には、職員間での議論を重ねた意見も反映できればとの思いもあり、全職員が参加し「将来ビジョン」を策定しました。これも議論を通じて職員の育成に繋がるものと考えております。

5、委員からの発言要旨

- ・預金・貸出金ともに前年を上回る業績を上げられた役職員皆さんの努力に敬意を表したい。この成績を維持していくことはそう簡単なことではないと考えるが、理事長が話されていた少数精鋭による人材育成と「困ったときは信組にまず相談」といった顧客との信頼関係を構築していただきたい。
人件費抑制による職員不足から、個々のスキルアップを目指されていることと思うが、職員の「将来ビジョン」策定への参加は、意識向上のうえでも是非継続していただきたい。
- ・経営審査会も今回で3回目の開催ですが、ホームページの改正・将来ビジョンの策定等取組が形になってきたと感じる。業績にも繋がったものと率直に感じ取れる。また、8年ぶりの復配でかなりの達成感はあると思うが、今後、この業績の維持・継続と水平飛行に転じた安定した会社の経営が求められます。局面は次の段階に移ったと考えます。
- ・「将来ビジョン」について討議している写真が掲載されていますが、若い人達が多いように見受けられる。職員の年齢構成はどのようになっているのか。
若い人達の長期的展望や意見を参考にした取組は企業に不可欠であり、また少数精鋭による人材育成と同時に新陳代謝も大切です。新卒であれ中途採用であれ新規雇用は必要です。
履行状況報告書の人員計画では10人ほど不足してますが原因は何か。
- ・今までは縮小均衡を進めていた時代であったが、今後は釧路市の人口規模・経済情勢が縮小傾向にあったとしても、また現実的には困難が想定されても、よ

り積極的な取組に打って出るのがよろしいかと思えます。

- ・ 預貸率60%弱の数値は適正なのか。
- ・ マイナス金利政策による影響はあるのか。

6、事務局からの発言要旨

- ・ 人員不足の中、計画達成・業績確保が先に立ちどうしても大口融資に目を向けがちになるが、原点に戻りお取引先の裾野を広げることが大切であり、地域の人々とのつながりはとても重要です。現在、1400先の事業貸出先がありますが、そのお取引先から新たなお取引先が生まれるような取組を目指します。従来のこちらから商品を一方的に売り込むアプローチ方法から、これからはお取引先の立場にたった渉外活動が当組合の業績・将来に繋がるという意識の变革が必要と考えます。

- ・ 若手人員、特に男性が不足しており、20代女子職員35名に対し20代男子職員は8人しかおりません。イベントの仕掛けなど積極的な広報活動で当組合を知っていただき、また、処遇面の改善も図りながらこの問題を解決して行きたいと考えます。

ここ数年、退職者の増加と、地方都市問題や少子化の影響、報道等での当組合に対するマイナスイメージがありました。今後の採用活動については、ただ待つだけでなく学校側へのアプローチやホームページの活用など積極的に行っていきます。

当面少数精鋭で頑張るが、あれもこれもの重圧は疲弊感だけを残す恐れもありますので、取組む姿勢に工夫を凝らして取組んで行きます。

- ・ 平成28年3月末の預貸率56.86%はほぼ適正と考えます。今後もリスクを考慮しつつ貸出の運用を図っていきます。余剰資金については、今後、運用の難しさが予想されますが安全な資金運用として国債が中心となっています。
- ・ マイナス金利の影響はあります。当組合は日銀との直接取引は無いのでその影響はありませんが、他行との貸出案件の競合、それに伴う金利競争は避けられない環境にあります。低金利での貸出に移行せざるを得ず、利鞘の減少が危惧されます。

これを乗り越えるためにも、お取引先の裾野の拡大が非常に重要です。確かに人員不足で大変ですが、あくまでお取引先を第一に考えて全員で克服すべき問題と思っています。

以上